

Vol.2は
8月21日
発売予定

発売日／5月21日(Vol.1)
価　格／¥5,880(税込)
発売・販売／ソニー・ミュージックエンタテインメント

STAFF

■構成・監督：安濃高志■キャラクターデザイン・作画監督：山形厚史■美術監督：加藤浩■音楽：GONTITI■音楽監督：溝口綾■アニメーション制作：亜細亜堂■制作プロデュース：フィールドワイ

CAST

■アルファ：椎名へきる■ココネ：中川亜紀子■おじさん：寺島幹夫■タカヒロ：陶山章央■先生：杉田郁子

CDも発売
「ヨコハマ買い出し紀行 ベスト・サウンドトラックス」
発売日/7月1日　価格/¥3,059(税込)

ているけどなかなか出来ない話もあるので、いずれやりたいなとは思ってます。

——飛行機の中にいるアルファーが地上にいるアルファたちと関わっていくということはありますか？

芦奈野　うーーん、たぶん関わらないんじゃないかと。ただ、下の世界との視点の違いや場所の違いで同じ場所や時間をどう評価するか、っていうのはやっていきたいなと思ってます。アルファーの昔の話も設定としてはあるんですけど、まったく別の話になっちゃうんで、それをまんがにするのはどうかなー、と。

——みさごやターボンなどの他にも変わった設定の物はあるのですか？

芦奈野　そうですね。まあ、いずれそういうのも(笑)。

——最近のまんがはハードな物語が多いので、そんなときに「ヨコハマ〜」をよむとホッとします。

芦奈野　『アフタヌーン』がそんなまんがが多いので、間に挟まっていると何ふぬけたまんが描いてんだ、って気がするんですけど(笑)。

——まんがを描くときはどのようにストーリーを考えられるのですか？

芦奈野　まずシーンを考えて、そのシーンを描くために話を考えるんですけど、なかなかシーンが浮かばなくて大変なんです。本当は2ヵ月位欲しいんですよ(笑)。話も1回1回がつながってませんし、起承転結があるものでもないですし、ひょっとしたら私の描いているものは"まんが"っていうものとは違うものなのかもしれません。

——シーンはどんな所で考えられるのですか？

芦奈野　まあ、だいたい家でなんですけど、"ここで考えるっ"て決めて考えてもシーンは浮かばないので、逆にその事を忘れたときによく出てきますね。歩いているときや、風呂に入っているときに「あ、これだっ！」って。でも戻ってくると忘れちゃってるんですけどね(笑)。

——描きやすいキャラクターや描きにくいキャラクターはありますか？

芦奈野　どのキャラも、みんな毎回苦労してる気がします。ササッと描けるキャラはいないですね。

——絵を描くのには時間をかけられる方なんですか？

芦奈野　ええ、必要以上にかかる方です。出来上がった絵からはあまりそんな感じはしないですけど(笑)。デビュー前は描いていれば速くなるものだと思ってたのですが速くならなかったです(笑)。最初のころは徐々にページ数を増やしていこうとかあったんですけど、ね。あまり増えてません(笑)。

——最近興味を持たれていることはありますか？

芦奈野　最近というわけではないのですが、地図を見るというのが常の趣味としてありますね。もう、地図ならどんな物でもかまわないのですが、特にひねくれたものが好きですね。1万分の1とかの家まで見える地図で道をたどってみたりとか、衛星写真などを見たりとか。あとは明治時代の頃の地図とかも好きです。地図を見ながら今度ここに行ってみようとか考えたりもしますし、あと、地図を見てると風景とかが思い出しやすいんです。特に明治時代の地図は地形が変わる前なので、例えば海面が上昇したらどうなるのかというのが想像しやすいですし、元の地形はどんな物なのか、とか考えたりしています。

——まんがを描き始めたのはいつ頃ですか？

芦奈野　初めてコマを割って描いたのは小学生の頃です。ただ、ちゃんとペンで描いたのは高校に入った頃です。それで、高校を卒業するころにはまんが家になりたいと思ってましたね。ただ、まさか本当に絵で食べていけるようになるとは思いませんでしたけど。

——まんが家になりたいと思ったきっかけは？

芦奈野　自分の「ヨコハマ〜」の様なまんがは成立するとは思わなかったんですよ。ちゃんとテーマがあって、そして目標に到達してっていうのがまんがだと思ってたので、自分にはそういったのは出来ないと思っていたんです。ストーリーまんがはほとんど描いたことがありませんでしたし、まんが家になれるとは思わなかったですね。絵で生きていきたいとは思っていたのですが。

——影響を受けたまんが家は？

芦奈野　そうですね、例えば松本零士さんや鴨川つばめさん。最近の方でしたら……、たくさんいますね。

——最近読んだまんがで印象に残っているものはありますか？

芦奈野　5年程前になるのですが、今はまんが家をやめられている杉浦日向子さんの「百物語」っていう話があるんですけど、あれはすさまじいなと思いましたね。最近ではみずしな孝之さんとか……。4コマまんがとか結構好きなんです。あとは木崎ひろすけさんの「少女・ネム」。あれもすごいなと思いました。



——デビューされてから4年が経ちますが、ここが変わったとか、ここは変わらないというのはありますか？

芦奈野　いやー、それは自分ではなかなか分からないですよ。改めて昔のまんがを見ると顔に険があるな、とか風景は今より描き込んでたなっていうのはありますけど。

——ファンレターは男性、女性どちらからが多いですか？

芦奈野　だいたい20対1位で男性からが多いです。ファンに人気があるキャラはやはりアルファ、かな？

——今後、「ヨコハマ〜」以外で描いてみたいまんがはありますか？

芦奈野　あるにはあります。「ヨコハマ〜」と似たようなものもあれば、もう少し機械が出てくるようなものとか、まあいろいろあります。

——それはやはり「ヨコハマ〜」の様なテンポの、温かい物語なんですか？

芦奈野　「ヨコハマ〜」じたいがそれを描こうとしてるわけではないんですよ。セリフとか絵には出てきませんが私の中ではうすら寂しい、状況としてはハードな物語だと思っているんです。まあ、そんな風に考える人もあまりいませんけど。ただ、そのギャップがまた良いのではないかと思いますね。

——それでは「ぱふ」の読者にメッセージをお願いします。

芦奈野　よろしかったら1度読んでみてください。

——ありがとうございました。





PRESENT!
芦奈野ひとし先生のサイン色紙を3名様にプレゼント!!応募要項は146ページを見てください。



「ヨコハマ買い出し紀行」OVA化記念
芦奈野ひとし インタビュー

独特のテンポで描かれた不思議な物語「ヨコハマ買い出し紀行」（『アフタヌーン』連載中）がOVAになりました。そこで芦奈野ひとし先生にいろいろ話を聞いてきたぞ!!

――OVA化が決まったときの感想をお願いします。

芦奈野　CDのときと同じスタッフで気心が知れた人たちだったんですが、スタッフの人にはそれぞれの思う「ヨコハマ買い出し紀行」っていうものがあるみたいで、それを出していただく場として今度はアニメなんだなって感じでした。

――前回のCD化に続き今度はOVA化ですが、連載当初からこのようなメディア展開は考えられていましたか？

芦奈野　いえ、それはなかったです。なにしろ「ヨコハマ買い出し紀行」がデビュー作ですから。ただ、「ヨコハマ～」でかどうかは分かりませんが、自分の作品がアニメ化されればいいなとは思ってました。

――アフレコを聞かれての感想をお願いします。

芦奈野　何しろすべてが始めての体験だったんですが、初めは声がでていることじたいが、うわ――。っていう感じでした。今はもう、声のイメージとアニメの絵がなじんできているのですんなりと見れます。

――2巻が8月に発売の予定ですが、3巻以降の予定や、このシーンをアニメ化したいというのはありますか？

芦奈野　3巻以降の予定はやはり売れ行きとスケジュール次第ですかね。アニメ化したいシーンや物語なんかは、監督の安濃さんが「ここがいいな」って思っているところを、ヒョイって選んでくれるんで、お任せしてます。

――OVAの見所を教えてください。

芦奈野　普通のOVAの見方とは違うと思うんです。このまんががOVAになったらこんな風になるんだろうなって、想像するんじゃなくて、どんな感じになっているのかな？って期待して見ていただけるといいかもしれません。間とか風景とかが本当に絶妙ですから。期待していてください。

――それではまんがの「ヨコハマ買い出し紀行」についてお聞きしたいのですが、まず主人公をロボットにするというアイディアはどんなことから思いつかれたのですか？

芦奈野　もとからキャラクターとしてアルファというロボットはあったんです。一番初めの作品が風景が主人公だったんですけど、それを描いているうちにいつのまにか出てきた一体、という感じですね。ロボットでなにかやってやろうではなくて、この風景にはこいつかなって感じでセットのように出てきました。

――アルファはロボットなんですが、とても人間らしくて可愛いのですが。

芦奈野　というか、あまりロボットと考えてやってないですから。時々ロボットなんだって思い出す程度です。

――変わった生き物や乗り物が登場しますが、こういった世界観は最初から考えられていたのですか？

芦奈野　雰囲気としては最初のころからありました。作品を進めながら次第に形になっているって感じです。

――時間がゆっくり流れており、とても温かい物語だと感じるのですが、これもこういう雰囲気で、と考えられていたのですか？

芦奈野　なにを描いてもテンポとしてはそんな感じになっちゃうんですけどね（笑）。ただ『ヨコハマ～』もそうなんですけど"温かい"というよりは空間的に物足りない、うすら寂しい物語というイメージなんです。読者のかたには温かいと、取っていただいているんですけどね。

――風景もとても綺麗ですが、モデルになった場所などはあるのですか？

芦奈野　おおまかなものはあります。あと、描いているうちにそんな感じになっちゃうものもありますけどね。結構どこにでもあるようなただの空き地とか、ごちゃごちゃした町だとかを描こうとはしているんです。見てくださる方から"ほのぼの"とか"温かい"とか言ってくださるのを聞いて、「そうなんだな」ってあとで思いました。

――この世界は近未来の地球をイメージして描かれているのでしょうか？

芦奈野　だいたいそうです。一応あいだのストーリーもないこともないんですけど、あまり重要じゃないかもしれないので（笑）。

――今後、「ヨコハマ～」で描いてみたいシーンや物語はありますか？

芦奈野　だいたいは出来次第描いてるんですけどね（笑）。長年やりたいと思う

インタビュー・構成／小柳好夫



講談社・アフタヌーンKC 1～5発売中

STORY

海面が上昇してしまった未来の地球。かつての大都市も海に沈み、人々は丘の上に集まり暮らしている。ロボットのアルファは海辺にある喫茶店を経営しながら、ゆったりとした時の中で、日々の生活を送っていた。



ぱふ 7月号目次

まんが情報誌「ぱふ」 7 月号
1998年7月1日発行
発行人●鈴木弘一 編集人●猪飼幹太
スタッフ●松尾佳子 鈴木真理
武井千秋 山本文子
竹内哲夫 後藤清美 小柳好夫
森加奈子 井上新佳子 田端静香
デザイン●松尾佳子（本誌） 大槻幸子
内堀明美 山田浩之 関根しのぶ
印刷●日本プリンテクス㈱
発行●㈱雑草社 〒169-0074 東京都新宿区北新宿1-1-15 メゾン新宿701
☎03-3366-0830（編集部）
☎03-3985-8477（営業部）
振替●東京00100-3-74951

「ぱふホームページアドレス」
(http://www.kt.rim.or.jp/~ma_comic/puff.html)

まんが・アニメ・同人誌情報マガジン

平成10年7月1日発行第24巻273号 毎月1回1日発行(昭和58年4月25日第3種郵便物認可)

ぱふ

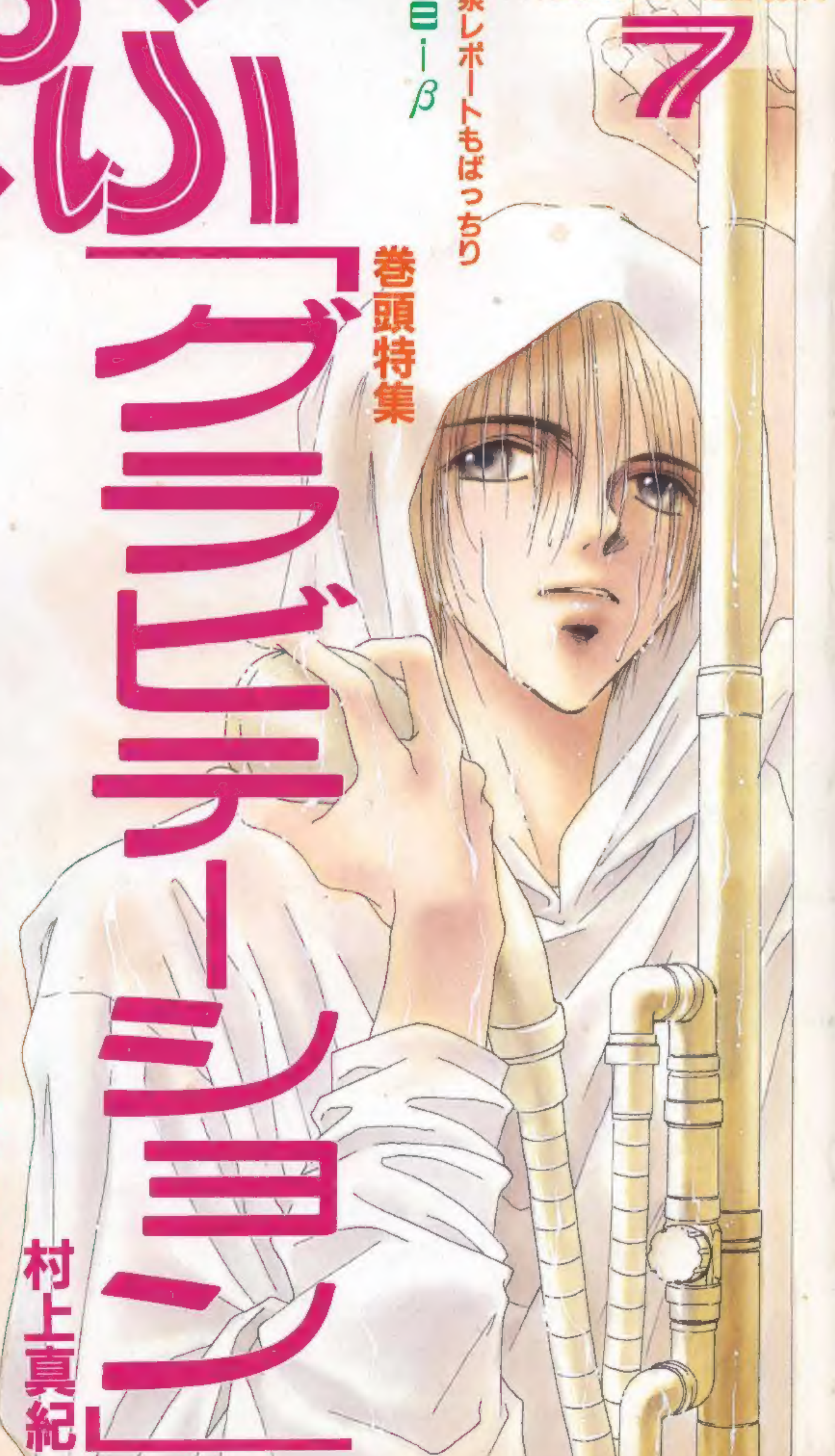
1998 7

定価 650円

・イラストみずき健

温泉レポートもばっちり

Wei-β



巻頭特集

「グラビテーション」

村上真紀

インタビュー

柏屋コッコ

尾崎南

三好雄己

芦奈野ひとし

平野耕太

特別企画

まんがで楽しむサッカー